東京史話

鷹見安二郎著

新人民社

東京史話

鷹見安二郎著

市政社

紀元二千六百年記念出版
昭和十五年六月十日印刷
昭和十五年六月十五日發行

東京史話

定價金二圓
郵送料十二錢

著者　鷹見安二郎
東京市神田區錦町三ノ一一

發行者　須藤紋一
東京市神田區錦町三ノ一一

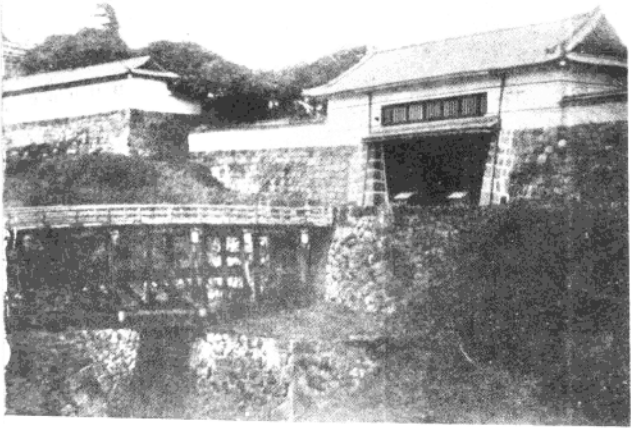
印刷所　三鐘印刷株式會社
東京市神田區錦町三ノ一一

發行所　市政人社
電話神田(25)二三六三番
振替東京一〇九五一番

江戸名所図会（所蔵者不明）

（版年三和享）図地戸江

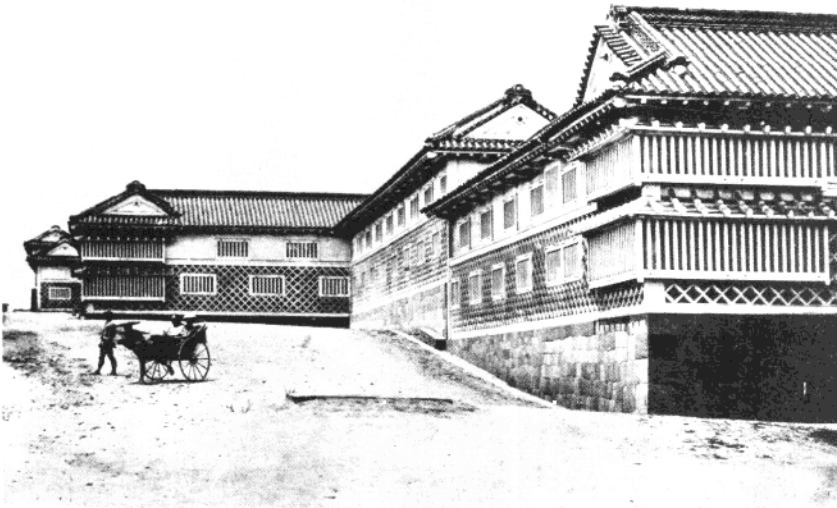
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



二重橋（明治四年頃）（二三六頁參照）

（明治初年）（一一一頁參照）

珠寶擬橋草漫



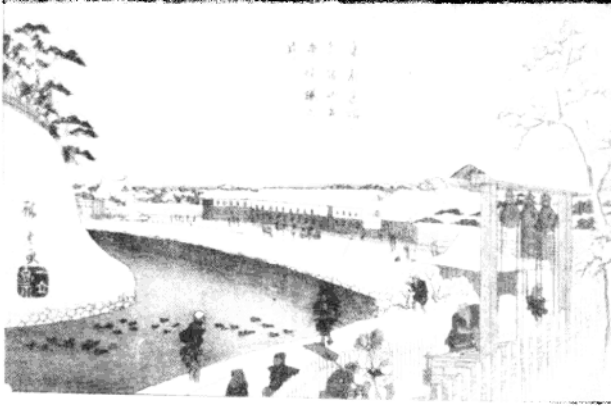
（明治初年）開ヶ霞（一四頁參照）

赤羽橋（廣重筆）（二六頁參照）

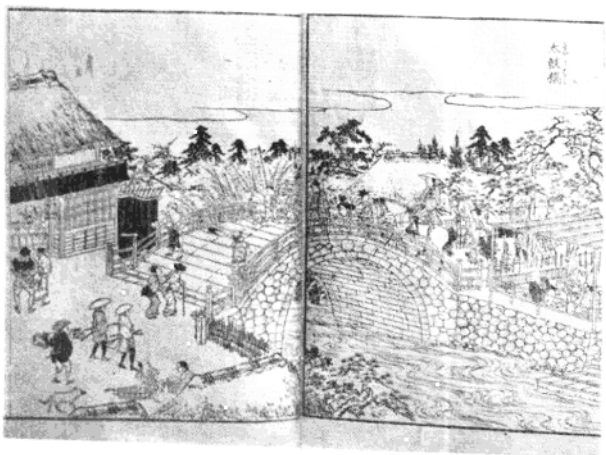
太田道灌木像
（口絵二八九頁參照）

徳川家康と天海對談圖
（口絵二九二頁參照）

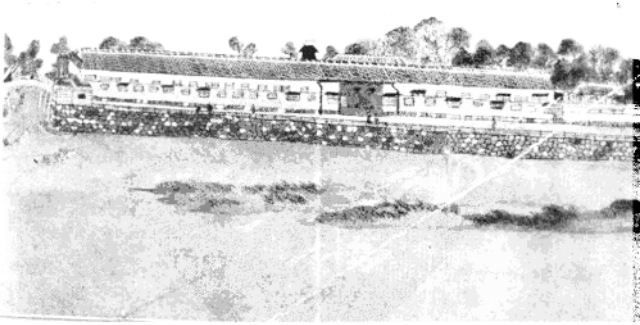
松平定信肖像
（口絵二九三頁參照）



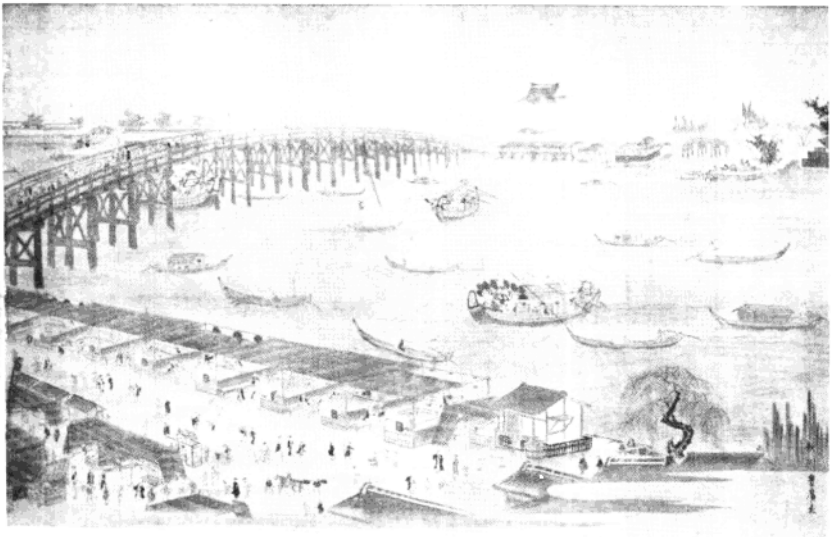
櫻の井（廣重筆）（二五頁參照）



目黒太鼓橋（江戸名所圖會所載）（三〇頁參照）

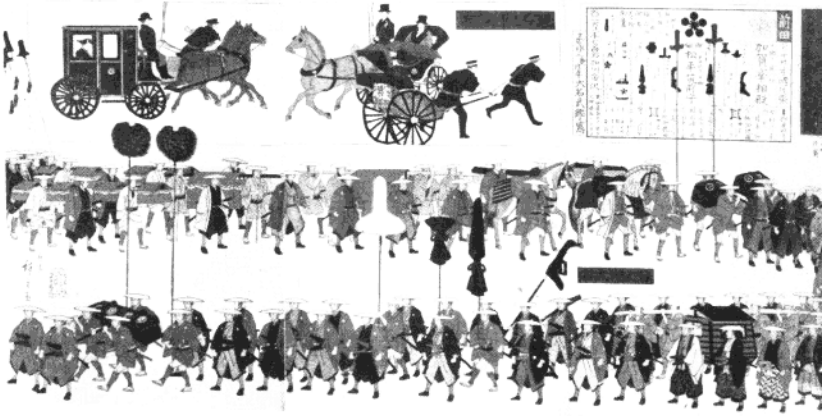


濱町河岸大名邸（一〇頁參照）

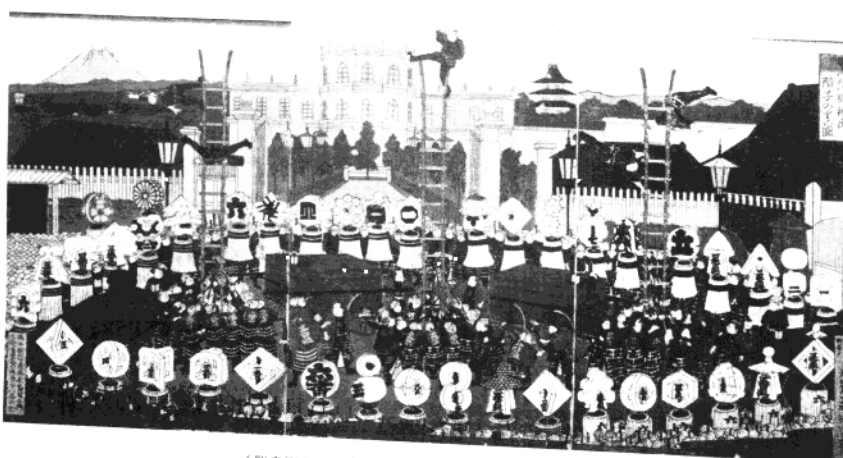


雨 國 橋 の 岡（廣重筆）

馬車鐵道時代の日本橋（一八七二年撮影）

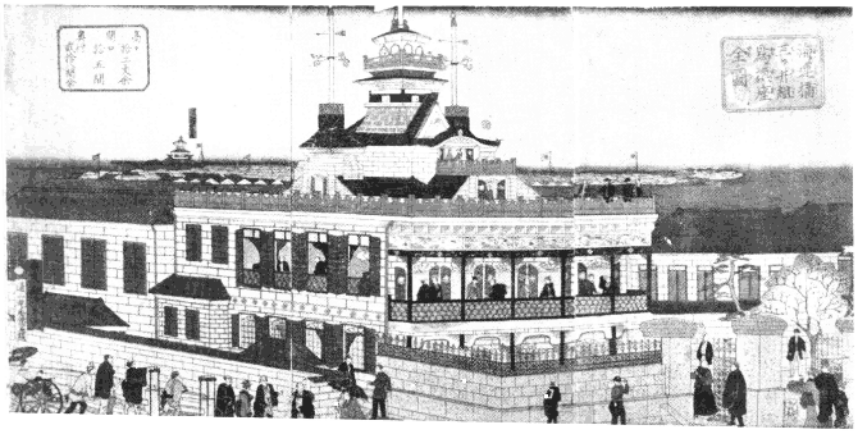


大名行列図（口絵参照）

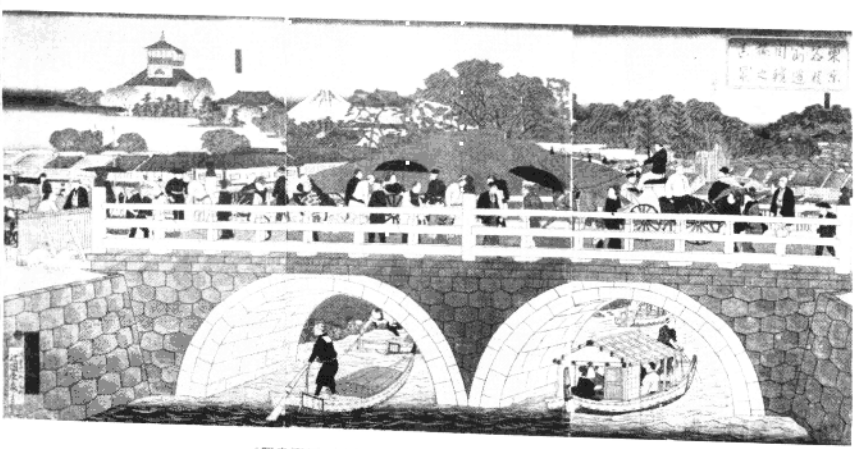


明治初年の年初め消防組出初（口絵参照）

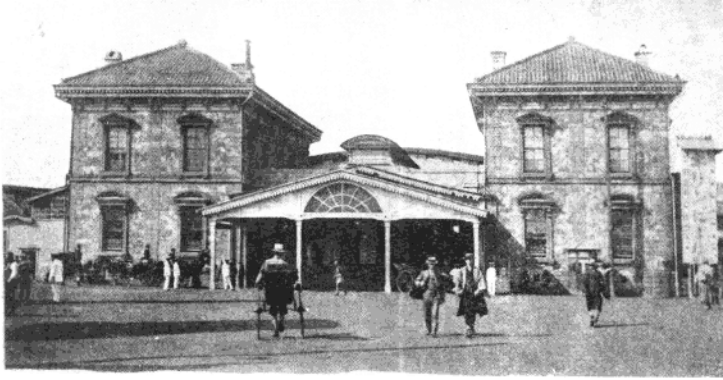
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.



三井組爲換座本圖（照參頁四一三）



萬代橋圖（照參頁四一三）



新橋驛（明治末頃）

京橋より銀座を望む（明治末頃）

吾妻橋（明治末頃）（三一四百參照）

自序

東京市史編纂の仕事に携つてから既に十餘年の年月が經つた。その間本務の餘暇に執筆し發表した論文や隨筆の類が相當の數に上つてゐる。豫て市政人社の須藤紋一氏からそれを纏めて刊行することをめ奬められながらその儘になつてゐたが、先頃また奬めを受けたので、その氣になつて纏めてみることにした。纏めてみると、思つたより澤山の分量になつてゐる。その中から十九種を撰んでこの一冊に收めた。

東京の文化史にとつて意義もあり、專門外一般の人々が讀んで興味も深いやうにと心がけて題材の選び方や書き表はし方に注意した。東京史話といふ書名はその氣持を表はした心算である。もとより不備の點も少くないであらうから大方の御叱正をお願ひする。

御所藏品を口繪圖版として揭載さしていたゞいた方々や出版のことに關して色々御世話になつた島田筑波、有元正、阿部貞道諸氏に厚く御禮申上げる。

昭和十五年四月

鷹見安二郎識

東京史話目次

江戸と東京三題……一
　町の數。人口構成。大名屋敷
江戸無二の物集……一六
　百萬石獻上の雪。切火繩の行列。片箱一本道具。乘物の黑棒。御家老
　六萬石。三つ車の一つ井戸。江戸一の火の見。火の見の太鼓。一町一
　軒住居。木更津の出入船。石の太鼓橋。
正月の行事の中から……三二
　門松の色々。消防出初。左義長の禁。
江戸の都市美に就いて……四一
高札場挿話……五一
日本橋の罪人晒し場……五九

川柳から見た家主の自治活動……六六
縁切寺と縁切榎……八一
江戸開城と海舟南洲の苦心……九四
馬車鐵道の頃……一〇四
浮世繪と橋の美……一一三
東京の橋名に就いて……一三一
町火消の纏の由來……一四六
消防史から見た大岡越前守忠相……一五五
迷子しるべ石……一八一
辻番の話……一〇二

寛政の町法改正・七分金・町會所・東京會議所……三〇
町奉行所の話……二五二
東京市史梗概……二七八
一、緒言。一、太古の住民。一、日本民族の來住。一、郡鄕時代の狀態。一、江戸氏豊島氏葛西氏の時代。一、太田道灌と江戸。一、徳川氏の入國と幕府の開設。一、江戸城の完成と江戸の發展。一、明暦大火の影響と元祿時代。一、享保の市政改革。一、寛政の改革と町法改正。一、江戸の黄金時代。一、天保の改革の失敗と幕府の衰亡。一、東京奠都。一、明治初年の東京。一、東京市の成立。一、大震火災と市域擴張。一、結言。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.